



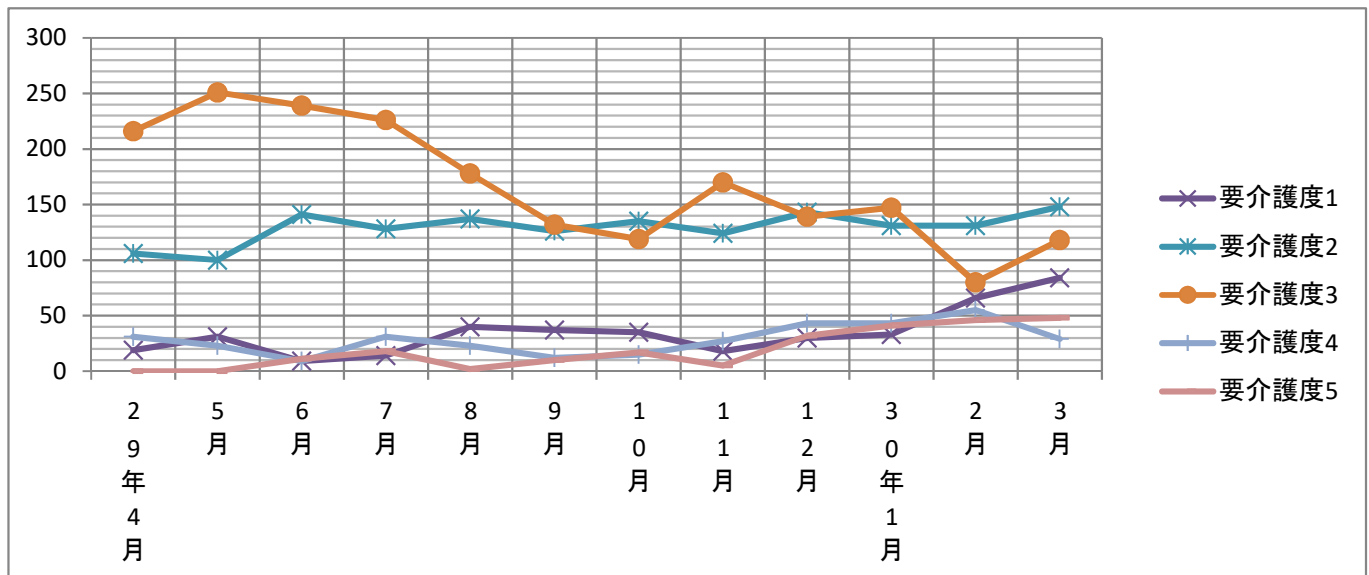






# 年度短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護事業年間実績及び介護度統

	非該当	要支援1	要支援2	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	合計	充足率
29年4月	0	3	0	19	106	216	31	0	375	83.3%
5月	0	3	0	31	100	251	23	0	408	87.7%
6月	0	3	0	9	141	239	9	11	412	91.6%
7月	0	6	9	14	128	226	31	18	432	92.9%
8月	0	0	0	40	137	178	23	2	380	81.7%
9月	0	1	2	37	126	132	12	10	320	71.1%
10月	0	4	0	35	135	119	15	17	325	69.9%
11月	0	0	1	18	124	170	27	5	345	76.7%
12月	0	0	10	30	143	139	43	32	397	85.4%
30年1月	0	0	4	33	131	147	43	41	399	85.8%
2月	0	0	4	66	131	80	55	46	382	91.0%
3月	0	0	0	84	148	118	29	48	427	91.8%
合計	0	20	30	416	1550	2015	341	230	4602	
利用割合	0.0%	0.4%	0.7%	9.0%	33.7%	43.8%	7.4%	5.0%		平均充足率 84.05%



年間利用延べ人数	年間平均充足率	一日平均利用者数
4602人	84.05%	12.6人

平成29年度の年間実績を昨年度と比較すると、年間利用延べ人数で-1,070人、年間平均充足率-2.94%、一日平均利用者数で-2.94人であった。この減少率の原因を考えると、ロング利用者の入所や入院によるところが一つの原因であると思われる。また利用者の介護度の割合の変化も上げられる。

介護度の比較を行うと、昨年と要支援1～要介護2までの割合は殆ど変化はみられないが、要介護3の割合が+12.5%、要介護4に関しては-10.5%だが、要介護5は+3.8%（前年度比約2倍）となっている。一概には言えないが、要介護5の方の場合は全介助の方が多く、また、要介護3の場合は転倒リスクが高い方が多く、どちらの場合もその方に対しての介護に携わる時間が多くなり、結果的に空室状況があるにも関わらず、他の利用者を入所させたとしても、安全性の確保が難しいといった理由から、入所をお断りせざるをえなかったという現状もある。

平成30年度は、受け入れが難しい状況ながらも「どうすれば利用につながるのか」という利用者を受け入れた後の対策の協議を多職種間で行うことや、事前の情報収集に力をいれること、また、利用者、家族の意向に全ては答えられない場合でも、岱山苑としてできることを提示し、理解を得ることで充足率の上昇につなげていきたい。











